

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

話すこと・聞くこと

- 記号で答える設問については、大阪府値あるいは全国値をやや上回るが、記述文章で答える設問では大阪府値をやや上回るものの全国値をやや下回っている。

書くこと

- 特に「山田さんの意見文」では全国値、および大阪府値を下回っている。記述の設問になると、考える意欲が乏しくなる。

読むこと

- 「吾輩は猫である」の主語についての設問や吾輩の猫への接し方についての設問では、全国値および大阪府値を下回っている。特に無解答が多かった。
- 語句の意味や抜き出しの問題は全国値、および大阪府値をやや上回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 漢字や読みや意味は全国値、および大阪府値をやや上回っている。
- 敬語については全国値、および大阪府値を下回っている。

●国語における成果と今後の改善点について

- 文中から語句を見つけ出す問いや記号には意欲的だが、自分の意見を書く問いでは考え抜くところまでには至っていない。
- 敬語を含む丁寧な言葉遣いなど社会生活にさらに必要な語句を知り、使えるようにする。
- 内容を把握して記述式で答えられる問題演習を増やし、書くことへのアレルギーを軽減する。
- 古文については、あらすじを読み、流れをつかむ練習と教を積み重ねる。

●数学《概要》

以下項目

「数と式」

- 平均正答率は、全国と比べてやや上回り、大阪府と比べて上回った。
- 問題別集計結果を見ると、すべての問題において平均正答率は全国・大阪ともに上回った。

「図形」

- 平均正答率は、全国・大阪ともにやや上回った。
- 問題別集計結果を見ると、すべての問題において平均正答率は大阪府を上回った。全国を下回った問題は、「図形の性質を用いて、数学的に表現する問題」であった。

「関数」

- 平均正答率は、全国とほぼ同じであったが、大阪府と比べるとやや上回った。
- 問題別集計結果を見ると、ほとんどの問題において、平均正答率は全国・大阪ともに下回った。しかし、無回答率においては、全国・大阪と比較すると大きく下回っており、積極的に問題に取り組む姿勢が読み取れる。

「資料の活用」

- 平均正答率は、全国と比べてやや上回り、大阪府と比べて上回った。
- 問題別集計結果を見ると、ほとんどの問題において、平均正答率は全国・大阪ともに上回った。

● 数学における成果と今後の改善点について

- ①全体の平均正答率は全国・大阪ともにやや上回った。
- ②学習指導要領における4つの領域において、大阪府の平均正答率は全国に比べて、すべて下回っている。しかし、全国値と比較すると、すべての領域において上回っている。
- ③問題別集計結果の中で、全国の正答率を比較した際に下回っている問題は「4関数の意味を理解しているかの問題」、「8(2)相対度数の意味を理解しているかの問題」、「9(3)図形の性質を見出し、それを数学的に表現することができるかを問う問題」であった。このことから、基礎的な計算力は身につけているが、文章から読み取り、表現する力に課題があることが読み取れる。

<改善点>

数学的な技能を問われる問題に対する理解は、全体的に高い結果となった。しかし、数学用語の理解や問われたことを自分の言葉で書き表すことを苦手とする生徒が多いことが分かった。授業の問いかけに対して、様々な解答や考え方が認められるような授業作りをより一層強化する必要がある。

● 英語 ※質問紙調査のみ

- ・1、2年生時、ALTと1対1の会話練習や学校紹介など30語程度での英作文を書く練習を繰り返し行ってきたことが、自分の考えを英語で伝えることへの自信につながっている。
- ・「英語の勉強は好き」（どちらかといえばを含む）と答えた生徒は、大阪府や全国の数値よりも上回っている。
- ・一部生徒は英会話教室等で英語に触れる機会があるが、ほとんどの生徒が日常生活で英語でコミュニケーションをとる機会がない。

● 新型コロナウイルス感染症が生徒に与えた影響について

- ・感染拡大に伴う休校期間、勉強に不安があった生徒は全国値よりも少なかった一方で、計画的な学習実践ができていなかった生徒は全国値よりも多かった。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大で学校の休校期間中、規則正しい生活を送ることは府・全国平均より低くなっている。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・本校では朝食をとっていない生徒の割合が、全国平均と比べ少し高い。
- ・毎日同じ時間に寝ている生徒は全国平均より高いが、起きる時間は安定していない傾向がある。
- ・自分の住んでいる地域の行事に参加している割合は全国・府と比べても低い。

【教科・学習について】

- ・「授業において、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたか」について、およそ7割の生徒が肯定的回答であった。
- ・「～の勉強は好きですか」については、国語・数学・英語のすべての教科において、肯定的回答が全国値を上回っている。
- ・家庭で計画的に学習ができている割合が全国・府平均値を下回っている。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、基礎学力を定着させ、子供たちが活発に学習に取り組める授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。昨年度から継続して、朝読書や週末課題等に取り組んでいます。今年度は新たに朝学習にも取り組み、学習習慣の定着を図りたいと考えています。また、各授業では教科の実情に合わせて授業開始時の小テストや授業（単元）ごとの振り返り等、子供たちが主体的に学習に取り組む力をつける取組も行っていきます。

生活環境や学習習慣等の結果では、「難しいことにも失敗を恐れず挑戦する」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにする」という質問に対して肯定的な回答の割合が全国値を上回っており、どんなことにも前向きに取り組む本校の生徒の姿が顕著に表れています。一方で、「毎日同じくらいの時刻に起床（就寝）している」という質問に対しては肯定的回答の割合が全国値と比べて低く、規則正しい生活習慣の定着が課題であるといえます。

生徒の自立と幅広い学習の機会をつくるため、今後ともご支援・ご協力・ご指導をお願いいたします。